

キヤノン株式会社

2016 年第 3 四半期 決算説明会【主な Q&A 要約】

Q1. 年間見通しの対前回の営業利益変化について、コストダウン効果が数量下方修正の中で縮小せずに留まっている理由は？

A1. 確かに生産数量が確保されることはコストダウンに大きく影響してくるが、今回前回のコストダウン見通しを上回る改善が進んだので、数量減を埋め合わせることができた。コストダウン努力がそれ以上に現れているということだと考えている。

Q2. 前回見通しから更に大幅な経費改善を広告宣伝費を中心に見込んでいるようだが、そのほかの要素を含め、どのような削減計画なのか？

A2. 広告宣伝費については、販売方法を E-Commerce にシフトさせていくなど変えてきている中で、従来の新聞・雑誌・TV といった広告媒体の効果を見直しており、厳しい状況下では、できる限りの削減を図る方針を実行するということである。加えて言うならば、投資計画の見直しからくる償却費、開発費の見直しなども追加削減に含まれている。

Q3. HP のサムソンプリンター事業買収の件について、本当に影響はないのか？

A3. A4 中心のレーザープリンター事業はこれまでのパートナーシップに影響はないと考えているが、将来的な生産・販売体制については今後検討を進めていくことになる想定しており、現時点ではまだ分からないことも多くある。

Q4. 半導体露光装置の台数見通しを前回の 77 台から 63 台へ引き下げたが、元々 3D NAND のプロセスで使用を見込まれていたユーザーが設備投資一式を来期に先送りしたということなのか？もしくは、3D NAND の量産時期が近づくにつれ、その他使用目的としての装置需要が御社の見込みに対して短期的に減ったということなのか？

A4. 従来の NAND 投資に基づいて商談をしてきた中で、顧客が 3D NAND に向けた投資に経営資源を集中するという判断をした結果だが、3D NAND のプロセスにおいても当社の半導体露光装置は同じ使われ方をされていくと見ている。ただ時期については見直しを掛ける必要が出てきたため、今回引き下げた。

Q5. レーザープリンターは消耗品の厳しい状況が続いており、その理由として挙げられているプリント抑制やサードパーティシフトなどはさほど新しい話ではないように思えるが、何かきっかけがあったのか？

A5. 確かに理由は真新しいものではないが、景気悪化をきっかけにそれらの要素がさらに大きく影響してくることは十分に考えられる。特に新興国での景気低迷の長期化が我々の想定以上であったことが主な要因である。

Q6. 東芝メディカルシステムズ社の子会社化に向けた現在の進捗は？

A6. クリアランスは進んでいるが、完了はしていない。

本資料で記述されている業績見通し並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。